

第21回新日鉄音楽賞 贈呈式・受賞記念コンサート



7月6日、東京・千代田区の紀尾井ホールで「第21回新日鉄音楽賞」の贈呈式と受賞記念コンサートが行われた。フレッシュアーティスト賞にヴァイオリニストの長原幸太氏、特別賞にヴァイオリニストで(社)才能教育研究会芸術監督の豊田耕児氏が輝いた。新日鉄音楽賞は1990年、新日鉄創立20周年と新日鉄コンサート放送35周年を記念して設けられたもので、新日鉄グループは日本の音楽文化の発展と、将来を期待される音楽家の一層の活躍を支援している。



受賞の喜びを語る豊田氏(中央)



松下功「マントラ」ほか2曲を演奏

コンサートマスターとしてオーケストラに生命を吹き込む

フレッシュアーティスト賞

長原幸太氏

フレッシュアーティスト賞は将来を期待される優れたアーティストを対象とした賞で、技術のみに偏らず音楽性や将来性を重視して広い範囲から選出し、賞状とトロフィー、副賞300万円を贈っている。

ヴァイオリニストの長原幸太氏は、12歳で東京交響楽団と共演したのを皮切りに、日本各地の主要オーケストラや小澤征爾氏、故・岩城宏之氏、秋山和慶氏、ゲルハルト・ボッセ氏

などの名指揮者と共演。海外での活動も活発でイギリスの音楽祭に招かれ絶賛された。

ソリストや室内楽奏者として優れているだけでなく、大阪フィルハーモニー交響楽団の首席コンサートマスターやほかのオーケストラの客演コンサートマスターとして、オーケストラに好ましい生命を吹き込んでいる活動が今回高く評価された。

日欧で精力的に後進の指導に当たる

特別賞

豊田耕児氏

特別賞はクラシック音楽をベースにした活動を行っている個人を対象とした賞で、演奏家に限定せず幅広いジャンルの中から、音楽文化の発展に大きな貢献を果たした方に対して、賞状とトロフィー、副賞100万円を贈っている。

才能教育研究会芸術監督の豊田耕児氏は、ドイツ正統派のヴァイオリニストとして、ベルリン放送交響楽団で第一コンサートマスターを17年

間務め、ベルリン国立芸術大学で21年間後進の指導に当たるなど、ヨーロッパで活躍。その後、日本で草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティヴァルの創立および音楽監督や群馬交響楽団の音楽監督としても多大な成果を収め、現在も精力的に後進の指導に当たっている。

(長原氏、豊田氏は今号の「トークスクエア」にご登場いただいています)

第20回記念公演 ヴィオラスペース 2011 皇太子殿下ご臨席のもと 夢の競演を繰り広げる

今年で20回の節目を迎えたヴィオラの祭典「ヴィオラスペース2011」(主催：テレビマンユニオン)が5月27～29日の3日間、東京・千代田区の紀尾井ホールで開催された。最終日には皇太子殿下がご臨席され、国内外の豪華メンバーによるヴィオラの夢の競演に惜しみない拍手を送られた。



キム・カシュカシアン氏と桐朋学園オーケストラ

© 藤本史昭



ヴィオラ八重奏

© 藤本史昭



ヴィオラの祭典を堪能された皇太子殿下



今井信子氏(左から2番目)と次世代奏者

© 藤本史昭

若手からベテランまで 総勢24人の奏者が結集

今回の第20回記念公演は、3夜連続のコンサートの3つのミニ・コンサートで構成され、若手からベテランまで総勢24人のヴィオラ奏者が結集した。メインコンサートでは、室内楽に欠かさないヴィオラの技を聴く「アンサンブルの妙」、古今のヴィオラ協奏曲を聴く「ザ・コンチェルト」、無伴奏からヴィオラ・オーケストラまで名手たちによるヴィオラ尽くしの祭典「ヴィオラ、ヴィオラ、ヴィオラ」万歳」と題し、ヴィオラのさまざまな魅力に光を当てた。

またミニ・コンサートでは、世界への躍進が目覚ましいアジアのヴィオラ奏者を紹介する「今井信子とアジア・フレ

オリジナリティ溢れる ヴィオラの祭典へと発展

「コンサート豪華出演者たちが講師となり公演に先立って行われた公開マスタークラスの優秀な受講生が演奏を披露する「ライジング・アーティスト・コンサート」、第1回東京国際ヴィオラコンクールの入賞者がさらに腕に磨きをかけて贈る「マロフ&ヘルテンシユタインジョイント・リサイタル」など、今後の音楽界を展望する公演となった。

ヴィオラスペースは1992年、国家的に活躍するヴィオラ奏者の今井信子氏を中心に、オーケストラの中でも目立たない楽器というイメージの強いヴィオラの素晴らしさを広く伝え、次代を担う若い演奏家たちを育成する目的で始まった。それから20年、日本を代表するヴィオラ奏者や国内外のゲスト・アーティストが創造的な演奏を繰り広げ、世界にも類を見ないオリジナリティ溢れるヴィオラの祭典へと発展した。ヴィオラスペースの歩みを振り返り、今井氏は次のように語る。

「こんなにも長く続くとは当初は正直なところ、想像もしていませんでした。世界中を見回してもヴィオラに特化したシリーズは見当たりません。これもヴィオラ仲間たちの、ヴィオラへの情熱の賜物であると思っています。今後とも私たちは常に前向きに、新しいこととにどんな挑戦していきたくて考えています」